連絡網にて会員各位（各グループ企業）へ配布、ＦＡＸ方お願いいたします。
発信番号：ＤＮＳＣ－０３０４　　発信日：２００３年5月２６日　原稿枚数：１
会　員　各　位（総経理・所長、駐在員の皆様）

発信：大連日本商工クラブ
安全対策委員長

安全情報

○新たに看護婦１名がＳＡＲＳの擬似感染者に認定（５月２２日）
○擬似感染者の看護婦２名は感染者に認定（５月２２日）
○専用病棟の出入りはなく、院外への感染可能性はほとんどない。

５月２３日午前１０時、大連市政府は市内のホテルにおいて、外国企業１００人程度に対して、ＳＡＲＳの現状に関する説明会を開催しましたので、その概要をお知らせいたします。

１．概　要

５月２２日、遼寧省と大連市ＳＡＲＳ対策専門家チームは、大連市第６人民病院のＳＡＲＳ専用病棟に勤務する看護婦の劉さん（女性、２２歳）をＳＡＲＳ擬似患者と認定した。

また、今月２０日に擬似患者と認定した２名の看護婦（王さん、賀さん）については、同じく２２日、感染者と認定した。

３人の看護婦とも、今月初めから入院していたＳＡＲＳ感染者（陳さん、羅さん（死亡））の看護にあたっていた。

この結果、大連市のＳＡＲＳ患者は、感染者３名、擬似感染者２名（うち１名は死亡）となった。

今回の看護婦の感染は、専用病棟内での感染であり、専用病棟への出入りは一切ないことから、病院外への感染の恐れはない。

２．感染者及び擬似感染者の状況

【王さん】女性、２９歳。4月２２日からＳＡＲＳ専用病棟で羅さん、陳さんの看護に当たる。5月１４日、体全体の倦怠感、筋肉痛を訴え、翌１５日発熱（３７．４～３９．３度）および頭痛。２０日朝、擬似患者と認定。その後、抗生物質投与によっても好転しないことから２１日レントゲン検査。２２日に感染者と認定された。現在、３７．１～３７．４度の発熱、呼吸困難、痰を伴わない咳といった症状。白血球は正常。抗菌薬の投与など積極的な治療が行われている。

【賀さん】女性、２３歳。4月２２日からＳＡＲＳ専用病棟で羅さん、陳さんの看護に当たる。5月１５日夜、だるさ、頭痛、発熱（３７．２～３８．５度）の症状があり、２０日朝４時、擬似患者と認定。２１日夜、レントゲン検査の結果、症状が悪化しており、翌２２日、感染者と認定。現在、体温は正常だが、軽い倦怠感、咳、呼吸困難などの症状がある。

【劉さん】女性、２２歳。4月１８日からＳＡＲＳ専用病棟で羅さん、陳さんの看護に当たる。5月１６日から咳がはじまるが発熱、倦怠感はなかった。5月２２日、擬似感染者と認定された。現在、レントゲン検査の変化、抗生物質の効果を観察中。現在、３７．３～３８．０度の発熱、悪寒、咳、頭痛、倦怠感、筋肉痛を訴えている。

【陳さん】男性、５２歳。擬似感染者で死亡した羅さんと密接な接触を持ち、5月２日に発熱。擬似感染者と認定。5月１１日夜、感染者と認定。現在も病状は重く、懸命な治療が続けられている。

３．隔離状態

陳さん、羅さんとの接触者については、現在も隔離中である。すでに一般的な潜伏期間（１４日）を経過したが、症例は発生しておらず、このルートでの新規感染はないと思われる。

王さんら３人の看護婦は、専用病棟内で感染したものであり、彼女たちとの接触者（密接接触者、一般接触者）は、出入りができない専用病棟内の人のみである。今後、このルートで感染があるとしても院内だけであり、社会に出る可能性はないと思う。

なお、隔離対象者は、発熱した日から３日間さかのぼって接触した者である。

＜安全対策委員会からの注意＞

院内感染のため拡散の可能性が低いからといって、ＳＡＲＳ感染の危険性がないということではありません。各自、各社とも、うがい、手洗いの励行などＳＡＲＳ対策に有効とされる対策に心がけてください。

大連市内のＳＡＲＳ情報は、在瀋陽日本国総領事館在大連（駐）事務所のホームページがコンパクトにまとまっており、更新もかなり頻繁です。どうぞご活用ください。

http://www.dalian.cn.emb-japan.go.jp/jp/index.html